

アイヌ民族



* 河崎家文書1526 「アイヌ風俗絵はがき」

解説

よりよい未来に向けて、今日の日本社会が解決すべき課題の一つが「人権の尊重」です。なかでも忘れられがちなのが、北海道の先住民族であるアイヌの人々に対する差別や偏見です。

江戸時代の「蝦夷地」が明治時代に「北海道」に変えられていったとき、近代化の名のもとに、アイヌの人々は土地や漁場だけでなく、固有の生活や文化といった民族としてのアイデンティティーをもうばわれていきました。困窮したアイヌの人々を救うために、1899（明治32）年に「北海道旧土人保護法」が制定されますが、あまり効果はありませんでした。

ようやく、1997（平成9）年になって、アイヌ民族初の国会議員である萱野茂らの尽力により「アイヌ文化振興法」が制定されます。さらに、2007（平成19）年国連において「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が採択されたのをうけて、翌年に「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」が国会で採択されました。これにより、アイヌの人々は、日本列島北部周辺や北海道に先住し、独自の言語や宗教、文化を持つ先住民族として公式に認められることとなりました。

写真は、アイヌの風俗を紹介した8枚組の絵葉書です。下は、人の世界に熊の姿であらわれたカムイ（神）の魂（霊）を、天上の神々の世界に送り返す「熊送り」と呼ばれる祭式儀礼の様子を写したものです。

